

健康ウォッチング

東陽病院内科医師

鈴木健士

インフルエンザの 予防接種について

横芝町の皆さんこんにちは。
お彼岸も終わり、過ごしやす
くなっている頃かと思えます。
今回はインフルエンザの予防
接種についてお話したいと思います。

をひいてしまいました」と言
われることがあります。こ
れは仕方ないことです。

インフルエンザの流行する
季節は冬ですがその季節が来
る前にあらかじめワクチンを
接種して予防するわけです。

これではワクチンを打つ意
味がないように感じられたか
もしれませんが、インフルエ
ンザは風邪よりも症状が重く
特に高齢者などでは致命的に
なることもあります。数年前
にインフルエンザが流行した
時には大勢の方が亡くなられ
たことは記憶に新しいところ
です。特に老人施設などでは
集団感染が起こると大変です
のでワクチン接種を積極的に
行っているようです。

ワクチンは厚生労働省でその
年に流行が予想される型を検
討して10月中旬頃までにつく
られます。何種類かの型の混
合したワクチンですが全ての
ウイルスに効くわけではあり
ません。ですから型がはずれ
ていればワクチンを打っても
あまり意味がないという可能
性もあります。またいわゆる
普通の「風邪」は多種類のウ
イルスによって引き起こされ
ますのでワクチンの開発は困
難でインフルエンザワクチン
を打っていても防げません。
「予防注射を打ったのに風邪

ではどのような人がワクチ
ン接種をすべきなのでしょう
か。もちろん接種を希望され
る方は受けていただいて結構
なのですが、特にお勧めした
いのは高齢の方、心臓や肺等
の病気を持っている方、副腎
皮質ホルモンなどの免疫を抑
える薬を服用している方など
です。

「母親学級」を開催

とき 10月26日(金)
午後2時～午後4時
場所 東陽病院2階
産婦人科外来
対象 制限はありません

文芸

俳句

白い歯の笑顔麦藁帽子の子

浅野 茂子

降りたちて上野の森の鐘涼し

伊藤 敬子

旅に出て車窓に姿はる夏の山

池田 逸子

あちさいの盛りを電車来て止まる

岡田 雅美

捨てること未だに慣れず敗戦忌

勝又 和徳

夏祭り終へたるあとの広場かな

向後 寛

今日ありて夫と語れず盆の月

鈴木 繁子

夕立や言葉を後に軒借りる

土屋 栗水

帰省子に母の手料理惜しみなく

藤代 ゆう

朝市の音よき西瓜買ひにけり

渡部 和秋

読みかけて昼寝むさぼる四書五経

選者 鈴木 草庵

短歌

打ちよせる荒波ひたすら抱きゆく
九十九里浜の広き渚は

永藤 滋

六〇〇束の新に点火の始まりて
天空に浮く大の太文字

吉岡 信子

語りつつあんみつ友と食むうちに
吾が憂鬱のいつか晴れぬつ

秋葉 悦子

「みらい」とふ名をつけられし玉蜀黍
黄の色冴えて茹で上りきつ

宇井 ちい

小向日葵の黄の花あかり仏壇の
み祖に夏をふりまきてゐる

八角 三枝

暑き目に羽化長びきし油蟬
抜けきれぬまま骸となりぬ

鈴木 やす

切り詰めし仙台茄子に水をやる
夫は幼を労はるやうに

佐瀬 初音

体温に近き炎暑の続きゐる
胡瓜の葉群はやも黄ばめり

押尾 輝子

苗場山に夫が汲みきし岩清水
ペットボトルに透きて輝く

西山満里子

うつしみを離れし時より爪も髪も
忌むものとして扱はれをり

渋谷 静子

連獅子の髪振るさまに若杉は
台風の中その秀をゆらす

掛川 友代

孵りすぎ庭に放ちし鈴虫の
をちこちに鳴く生き長らへて

選者 斎藤つね子